

四国においてダイズを加害するヒメサヤムシガ類の 種構成について¹⁾

若村定男・氣賀澤和男²⁾
(四国農業試験場)

奥 俊 夫
(果樹試験場盛岡支場)

ダイズを加害するヒメサヤムシガ類はマメヒメサヤムシガ *Matsumuraeses phaseoli* 一種と考えられていたが，RAZOWSKI and YASUDA (1975)によって，わが国には *M. phaseoli* と同属の数種が分布していることが明らかになった。奥ら(1983)は東北地方を中心に大豆を加害するヒメサヤムシガ類を調査し，マメヒメサヤムシガ，ダイズサヤムシガ *M. falcana*，クズヒメサヤムシガ *M. ussuriensis*，ヒロバヒメサヤムシガ *M. aeses vicina* の4種を確認し，被害は主にダイズサヤムシガによることを明らかにした。

四国地方において石倉ら(1952)はマメヒメサヤムシガが大豆の重要な子実害虫であると記述しているが，1950年代以降に香川県で採集された多数の標本の大半がダイズサヤムシガでありマメヒメサヤムシガは少なかったことが奥ら(1983)によって明らかにされた。

近年，転換畑作大豆が増加し，害虫の発生生態解明と防除対策確立が急がれてきた。本調査の目的は，ダイズを加害するヒメサヤムシガ類の種構成の解明を中心に，ダイズの生育初期の茎葉害虫相を明らかにすることであった。また，ダイズサヤムシガについては性フェロモンが同定され，発生予察等への利用の可能性が明らかにされた(WAKAMURA 1985；WAKAMURA and KEGASAWA 1986)ので，ヒメサヤムシガ類の種構成の解明は性フェロモンを利用する上からも重要であろう。

本調査において，徳島県農業試験場谷幸泰氏，愛媛県東予病害虫防除所吉岡幸治郎所長(現在愛媛県農業試験場)，別宮岩義氏，高知県農林技術研究所高井幹夫氏，四国農業試験場井上齊室長，香西修治氏のご協力を得た。記して深謝する。

調 査 方 法

ダイズ畑において，鱗翅目幼虫によって綴られた葉を採取した。採取した鱗翅目幼虫にはダイズ生葉を与え，ヒメサヤムシガ類は数頭ずつ，他の種は1頭ずつプラスチックシャーレ(直径9 cm，深さ1.5 cm)を用いて飼育室内(23 ± 1 °C，16 時間照明)で飼育した。ヒメサヤムシガ類は全て果樹試験場盛岡支場に送り種を同定した。その他の種は羽化後順次展翅標本とし，日本産蛾類大図鑑(井上ら1982)

1) Note on *Matsumuraeses* species (Lepidoptera : Tortricidae) injuring soybeans in Shikoku district.

By Sadao WAKAMURA, Kazuo KEGASAWA, and Toshio OKU.

2) 現在 東北農業試験場

Proc. Assoc. Pl. Protec. Shikoku, No. 22 : 95～97 (1987).

を参照し翅の特徴によって同定した。

幼虫の採集は1983年6月25日から7月12日、1986年6月28日から7月18日まで3～4日毎に香川県善通寺市の四国農試構内のダイズ圃場において行った。また、1986年には四国地域各地において採集を行った。即ち、7月14日徳島市、7月21日愛媛県西条市、小松町、及び東予市、7月24日高知県南国市、7月28日香川県善通寺市、綾歌町及び丸亀市、8月22日愛媛県久万町、9月下旬高知県長岡郡本山町、10月4日と7日高知県吾川郡伊野町において採集を行った。なお、和名及び学名は日本農林害虫鑑(日本応用動物昆虫学会監修1980)に従った。

調 査 結 果

調査結果は第1表に示した。1983年には香川県善通寺市において合計39頭のヒメサヤムシガを羽化させ、そのうち3頭がマメヒメサヤムシガ、36頭がダイズサヤムシガと同定された。一方、1986年には四国各地において合計1098頭のヒメサヤムシガ類の幼虫を採集し、1028頭を羽化させた。これらの成虫は全てダイズサヤムシガと同定され、マメヒメサヤムシガと同定されたものはなかった。その他、ヒメサヤムシガ類以外の種として、ウコンノメイガ *Pleuroptya ruralis* (SCOPOLI) 40頭、ミスジノメイガ *Hedyleta indicata* (FABRICIUS) 35頭、マメノメイガ *Maruca testulalis* (GEYER) 5頭、チャノコカクモンハマキ *Adoxophyes* sp. 27頭、チャハマキ *Homona magnanima* (DIAKONOFF) 5頭、シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* (HUBNER) 1頭、カブラガヤ *Agrotis segetum* (DENIS et SCHIFFERMÜLLER) 1頭が得られた。(その他未同定5種5頭)

第1表 四国各地のダイズ畑において採集されたヒメサヤムシガ類と
その他の巻葉性鱗翅目昆虫

採集年月日	採集地	ヒメサヤムシガ類		その他の巻葉性鱗翅目昆虫						
		ダイズサヤムシガ	マメヒメサヤムシガ	ウコンノメイガ	ミスジノメイガ	マメノメイガ	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ	その他	
1983.										
6.25-7.12	善通寺 ²	36	3							
1986.										
6.28-7.18	善通寺 ²	748	0	13	2		8	3		
1986.										
7.14	徳島 ¹	5	0	1			1		1	シロイチモジヨトウ
7.21	西条 ³	36	0	7			5	1	2	未同定
7.21	小松 ³	62	0	6	12		6		1	未同定
7.21	東予 ³	82	0	10	17	5	3	1	1	カブラヤガ
7.24	南国 ⁴	1	0		4		1			
7.28	善通寺 ²	16	0							
7.28	綾歌 ²	4	0	2			2			
7.28	丸亀 ²	58	0	1					2	未同定
8.22	久万 ³	3	0							
8.下旬	本山 ⁴	4	0							
10.7-10	伊野 ⁴	9	0							

1：徳島県、2：香川県、3：愛媛県、4：高知県

考 察

1983年の調査によって、四国地域にマメヒメサヤムシガが分布しダイズ葉を加害することが再確認さ

れたが、1986年の調査では採集されたヒメサヤムシガ類はすべてダイズサヤムシガであった。また、これら兩種以外のヒメサヤムシガ類は採集されなかった。また、奥ら(1983)は1950年代において採集された標本の大半がダイズサヤムシガであったことを明らかにしている。従って、四国地域においてダイズを加害するヒメサヤムシガ類はほとんどがダイズサヤムシガであり、マメヒメサヤムシガは1980年代においても極めて少ないと考えられる。

ヒメサヤムシガ類以外に巻葉性の害虫としてウコンノメイガ、ミスジノメイガ、マメノメイガ等のメイガ類、チャノコカクモンハマキやチャハマキ等のハマキガ類、シロイチモジヨトウとカブラヤガのヤガ類が採集された。これらの中では、ウコンノメイガ、ミスジノメイガ、チャノコカクモンハマキが他より多かったが、被害そのものは軽微であった。

今回の調査でシロイチモジヨトウが徳島市で採集された。さらに、若村(未発表)は1986年9月に香川県仲多度郡多度津町のダイズ圃場でシロイチモジヨトウ幼虫数頭を採集した。シロイチモジヨトウは、最近高知県や鹿児島県、大分県のネギ等において害虫化している(堀切1986)ので、今後の動向が注目される。

引用文献

堀切正俊(1986):シロイチモジヨトウの発生生態. 植物防疫, 40: 472-475.

井上 寛・杉 繁郎・黒子 浩・森内 茂・川辺 湛(1982):日本産蛾類大図鑑, 東京:講談社, 第1巻 966 p., 第2巻 392 pl., 552 p.

石倉秀次・永岡 昇・小林 尚・藤田 優(1957):大豆害虫に関する研究 第1報 四国地方に於ける大豆害虫相. 中国四国農試報, 1: 134-150.

日本応用動物昆虫学会監修(1980) 農林害虫名鑑, 東京:日本植物防疫協会, 307 p.

奥 俊夫・宮原義雄・藤村建彦・土岐昭男(1983):東北地方において大豆を加害するヒメサヤムシガ(予報). 応動昆, 27: 28-34.

RAZOWSKI and YASUDA(1975) On the *Laspeyresii* Genus *Matsumuraeses* Issiki (Lepidoptera, Tortricidae). Acta Zool. Cracov., 20: 89-106.

WAKAMURA, S. (1985) Identification of sex-pheromone components of the podborer, *Matsumuraeses falcana* (WALSHINGHAM) (Lepidoptera: Tortricidae). Appl. Entomol. Zool., 20: 189-198.

WAKAMURA, S. and K. KEGASAWA (1986) Sex pheromone of the podborer, *Matsumuraeses falcana* (WALSHINGHAM) (Lepidoptera: Tortricidae): Activity of the third component, (Z,E) 7, 9-dodecadienyl acetate, and 3-component formulation. Appl. Entomol. Zool., 21: 334-339.